



北海学園大学 人文学部

INTERVIEW

人文学部における 学びと研究について教員と 活躍する学生にインタビュー

人文学部にはどんな教員や学生がいるの？
どんな授業をしているの？
どうして今の研究テーマを選んだの？
人文学部における学びと研究について、
教員と学生のインタビューを通じて
ご紹介いたします！

大学での研究、学びとは

INTERVIEW

—現役学生が田中綾教授にインタビュー—



楢山修さん撮影

人文学部日本文化学科 教授 田中 綾

札幌市生まれ。札幌平岸高校を卒業。2008年に着任。2017年より、旭川市にある三浦綾子記念文学館館長。

担当 科目

- 1年生「人文学基礎演習」= 大学での学びのスキルを指導
- 1～4年生「日本文学史Ⅱ」= 明治～昭和初期の日本文学史
- 2年生「人文学演習」= 短歌の創作と鑑賞、合同歌集の制作
- 3年生「日本文学専門演習」= <異界>文学を読む、文芸誌の制作
- 3・4年生「日本文学特論Ⅱ」= 三浦綾子の小説を読む
- 4年生「卒業研究」= 論文と創作の指導

※「演習(ゼミ)」とは=学生が主体的に参加する、少人数のクラス

インタビュー

人文学部1部
日本文化学科1年

川口 毅



基礎演習でレポートを書いた、丸山真男「日本の思想」を手に

川口 高校生とも接点があるとうかがいましたが。

田中 そうですね、高校生向けの「出前講義」も毎年担当していますし、「全道高等学校新聞コンクール」の審査員も今年で3年目です。高文連の文芸研究大会では、「短歌ワークショップ」なども担当しましたよ。

川口 短歌といえば、2年生の「人文学演習」では、短歌を作り、合同歌集も作るそうですね。

田中 はい、今年はず「アナグラム」に挑戦しました。言葉のつづりの順番を変えて、別の語や文を作る“遊び”で、たとえば、「緊急事態宣言→きんぎゆうじたいせんげん→(順番を変えて→)じゆうげんきんぎたいせん→自由、現金、期待せん」。学生の作ですが、この自在な発想すごいでしょ!?

遊んでいるようですが、「そもそも言語とは何だろう?」ということを考える糸口にもなるものなんですよ。

川口 なるほど、“言語の恣意性”を意識したものですね。これも人文学部ならではの研究対象ですね。アナグラムに挑戦してみましたが、なかなか思いつかないですね(笑)。

田中 ほかに、「SNSふりがな」短歌にも挑戦してもらいました。【右下参照】
ツイッター ライン スマートフォン
「人間監視塔」「生存確認監視塔」「精神安定剤」など、SNS等をふりがなに
して、それにあてはまる熟語を考えてもらう課題です。

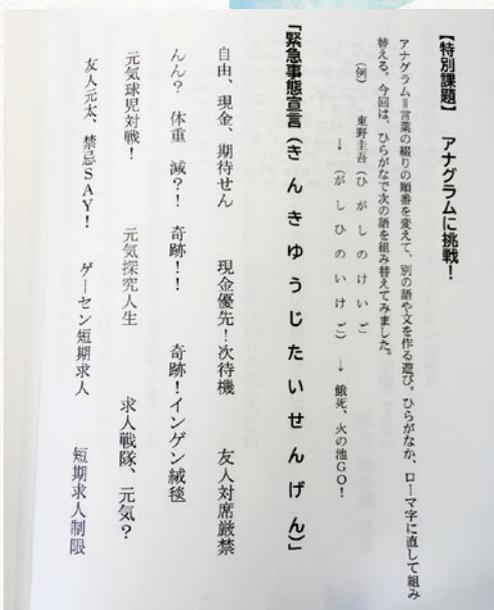
これも遊んでいるようで、実は、日本文学史の学びの1つ。ふりがなテクニックは、江戸時代の職業作家も使っていたもので、ふりがなと漢字とで、二重の意味を味わえるわけです。近代小説の先駆者・二葉亭四迷の『浮雲』にもしゃれたふりがなが多く、学生たち自身にも体験してもらおうと思って、毎年この「SNSふりがな」課題を続けています。

川口 なぜ短歌なんですか?

田中 いい質問ですね。実は私、大学4年生から「歌人」の肩書もあります。短歌雑誌の原稿を書くうちに、短歌で、古代歌謡から現代短歌まで数千年の日本文化を考えることができる、と発見!『古事記』や『万葉集』、勅撰和歌集、『源氏物語』にも和歌が多く出てきますし、戦国武将たちの「辞世」も短歌。明治以降も、天皇の御製から兵隊たちの短歌、教科書でおなじみの



ここ数年の合同歌集 タイトルも、表紙のイラストも、学生たちによるものです



アナグラム ほかに、「球児、対戦敵禁!」もあり、今年の甲子園を予言していたような?

与謝野晶子や斎藤茂吉らの短歌まで、いろいろあります。

新型コロナウイルス感染症についても、これまで、療養者や難病の患者さんたちの短歌の歴史があり、さらに、医療従事者の短歌の歴史もあるので、短歌を追っただけで数千年の日本史を考えることもできるんです。

川口 短歌は、日本の歴史と文化を考えるツールでもあるんですね。

田中 そう。「基礎演習」のとき、川口さんが指摘してくれたように、歴史は勝者の記録。短歌は、そんな記録からとりこぼされてしまう一般の生活者や、いわゆる社会的弱者、底辺に置かれてしまう人々も参加できる文芸として、存在感があると考えています。

川口 三浦綾子記念文学館の館長でもいらっしゃるそうですね。

田中 はい。3、4年生の科目では、文学館の収蔵資料を活かしながら、三浦綾子の小説を解説しています。ちなみに、三浦綾子さんも夫の三浦光世さんも短歌を作っていて、二人の合同歌集もあるんですよ。

川口 そのように作家個人に注目した授業もあるんですね、知りませんでした。

田中 三浦綾子は旭川出身で、代表作『氷点』『塩狩峠』などには北海道の風景が多く描かれているので、学生たちにも読みやすいようです。

ところで、逆インタビューしちゃいます(笑)。川口さんは、卒業後は出版社に勤めたいそうですね。

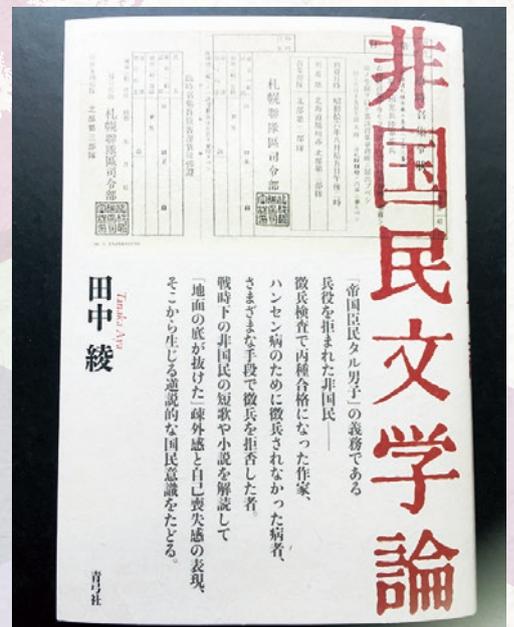
川口 はい、とりわけ岩波書店への勤務を考えています。理由は、岩波文庫の『方法序説』を読んだ時に、末尾の岩波茂雄氏の『読書子に寄す』の文章が新鮮に感じたからです。ほんの100年前までは未だ知識の取得は一部の限られた層だけができた特権的行為と知りました。そして現在と比べてみますと、現在は知識を学ぶ方法や手段は益々容易に、かつ平等になっていますが、殆どの人は知識取得をしようとはしません。この対比は面白いです。当時は知識が監禁されていた故に民衆はそれを解放しようと試みましたが、他方で、現代人はありふれている為に興味を示さなくなりました。

田中 たしかに現代は、インターネットで何でも検索できて、考えること自体をアウトソーシング(外注)している状況ですからね……。私も学生時代、出版社や放送局に就職したいと思っていて、広告代理店でアルバイトもしていました。その辺りはまたゆっくりお話ししましょう!

(このインタビューは遠隔で行いました)



ゼミ芸誌「これは1部の『A207』」 文庫本も刊行しました



『非国民文学論』 田中綾先生の近刊。青弓社より、2020年に刊行。

「SNSふりがな」短歌
2020年度1部人文学演習A
合同歌集「歌籠」より

心無い鳴き声を吐く
ツイッター

人間監視鳥
ツイッター

今日も誰かの
心突き刺す

承認欲求
ツイッター
目先のハートに囚われて
視力低下現実がぼやける
リアル

生存確認監視塔の
既読がつかなきや
何なんだ。

私の時間は私のものだ。
精神安定剤
スマートフォン

無かった頃に
戻れない増えてく量に
溺れる私

困ったら
へい!と呼んで

問い合わせ
何でも知ってる

二十四時間営業便利屋
スマートフォン

活躍する学生インタビュー

INTERVIEW



北海学園大学人文学部を卒業し、現在本学大学院文学研究科修士課程1年の蟬塚咲衣さんは、民俗学を研究しています。学部生のころから学術雑誌に論文が掲載されたり、大学院進学後も自身の研究が国際的な賞を受賞したりするなど、めざましい活躍を続けています。そんな蟬塚さんに、人文学部を志望した理由や、学生時代の思い出、ご自身の研究についてインタビューしました。



Q1 どのような高校時代を過ごしていましたか？

札幌平岸高校では、習い事(クラシックバレエ)と、部活(アンブラグドギタ一部)を両立しつつ、毎日の課題とテストに追われる日々を送っていました。

Q2 北海学園大学人文学部に進学した理由を教えてください。

国内の博物館巡りが好きで、日本文化学科に進学しました。英米文化学科の授業も受講することができるため、多角的な視点を身につけられると思ったからです。また、学芸員資格の取得を目標にしていたので、学芸員課程が設置されているという点も決め手になりました。

Q3 なぜ民俗学に興味をもったのですか。

私は入学時に、専門にしたい学問が定まっていなかったため、履修した1つ1つの授業を大切にしながら自分が何を学びたいのかを見定めていきました。人から話を聞くことが好きで、その地域の住民の方だからこそ知っている、その土地の歴史や文化、経験といった「民俗知」に関心がありました。最終的には、大学3年次に文化人類学・民族考古学・博物館学を学ぶことができる、手塚薫ゼミを選択しました。

Q4 学部では、どのように勉強・研究をつけてきたのですか。

学部在学中は、学芸員課程の研修に積極的に参加し、奥尻島、礼文島、石巻市(宮城県)、新ひだか町などを訪れ、発掘調査や文化財保護活動など様々な経験をしました。3年次に研究のフィールドを奥尻島に定め、研修で行った調査の結果をもとに、学会発表や論文投稿にも挑戦しました。

ゼミの教員から本校で開講されている「地理情報システム論」の履修を勧められ、3年次に受講しました。前期開講の「地理情報システム論」では、GIS(地理情報システム)の基本操作を学びました。GISとは、地上の事物や現象



に関する位置情報を地図上に可視化し分析するための手法です。後期開講の「応用地理情報システム論」では、実践的な分析方法を身につけ、個人の研究テーマに実際にGISを適用し、授業の最後に研究発表を行いました。他学部の学生の分析結果も刺激になり、前・後期を通して学んだことで、私が現在研究している「記憶地図」や「祭礼情報の可視化」といったテーマを深める際に大変役立ちました。

Q5 学部時代に勉強以外に熱中したことはありますか。

上記の活動や、文化施設に関わるインターンが予想以上に充実していたため、アルバイトやサークル活動はあまり行いませんでした。

Q6 現在の研究テーマはなんですか。

奥尻島の祭礼全般を研究しています。島の各地区で行われている神社の例大祭や、観光の目玉にもなっている「奥尻三大祭」など、1つの島でも祭礼によって特色があることが面白く、住民の方々からお話をうかがいながら楽しく研究しています。また、祭礼は地域の歴史や文化としてだけでなく、コミュニティの結束力や防災・災害復興の面でも注目されているため、とてもやりがいを感じています。



Q7 「第9回 Esri Young Scholars Award」の受賞について

北海道南西沖地震(1993)で甚大な被害を受けた奥尻島青苗地区における、震災前後の巡行ルートをGISを用いて可視化した研究成果が評価され、GISソフトウェアのトップシェアを占める米国Esri社の「Esri Young Scholars Award」※の最優秀者に選出されました。連絡をいただいた時には大変驚きましたが、これを励みに、今後も研究に専心していきたいと思っています。

※地理情報システム(GIS)のソフトウェアで著名な米国Esri社によって、GISを駆使した研究を行っている世界の優秀な若手研究者に与えられる賞のこと。蟬塚さんは、北海道からは初の受賞となりました。

Q8 今後どのような進路を考えていますか。



学問の専門性にとらわれず、学芸員になるという夢を実現できるよう努力しています。また、コロナ禍で現地調査もままならないなか、修士課程の2年間はあっという間に過ぎ去ってしまいそうなので、研究をさらに深化させるために、博士課程進学も視野に入れ始めています。

Q9 受験を考えている高校生にメッセージ

私自身、人文学部で4年間を過ごして、北海学園大学での大学生活は、自分の行動次第でいくらかでも実りあるものにできると実感しています。自分が苦手なことや、新たなことに挑戦するには勇気が必要ですが、先生方や友人たちとの出会いを大切にしながら、大学に進学したからこそできる様々なことに取り組んでみてください。



文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部 日本文化学科(1部・2部) / 英米文化学科(1部・2部)

